

教育目標	
未来を 心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 子どもたちは活発に友達と関わり、教師と共に遊びを楽しむ姿が見られる。身近な環境、特に砂、水、虫などの自然物と触れ合い、それを媒介にして友達とつながりが生まれていた。年度末の年長児の姿からは、自分の思いを言葉にして相手に伝えて遊びを進める、挑戦して自己発揮するなどの育ちが見られたことから、おおむね達成できたと思われる。中には指示待ちの子どももいるので、興味関心を把握し、環境を作りながら、自ら心を動かすような指導をしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ほとんどの子どもが幼稚園が大好きで、コロナによる休園期間中は子どもが幼稚園に行きたがる様子が見られた。感染対策をしながら、工夫して行事が行われて、思い出に残ることがたくさんあった。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年9月2日	運営協議会理事
最終評価	令和4年3月9日	運営協議会理事

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組 ・子ども自らが環境にかかわり、遊びが進められるような、教材の選択、配置の仕方を考え、一緒に遊びながら子どもとともに環境を構成する。 ・子どもの興味関心を把握し、遊びを広げ深められるような環境構成と教師の援助について、保育やエピソードを通して研修する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・子どもが主体的に活動し、豊かな学びが経験できるための教師の援助や環境構成の在り方を探ることを目指した、研究保育、エピソード研修の実施 ・週案を活用した子どもの実態の把握 ・個の発達に応じた関わりをするための、専門機関との連携 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向か

う力)を身に付けていること」の回答

中間評価

各種指標結果

- ・研究保育を2回(6月,7月)実施し,1回は学校指導課の首席に指導助言いただいた。
- ・担任が療育機関に出かけ,参観と懇談を8月に3回実施した。
- ・保護者アンケート項目「子どもは,夢中になって遊ぶことを通して,主体的に学ぶ力(学びに向かう力)を身に付けていること」の回答は,保護者はA(あてはまる)が98%,B(ややあてはまる)が2%,教職員はAが75%,Bが25%であった。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・4歳児の研究保育では,ソフトクリームのイメージで泡遊びができるような環境があったり,プリンセスごっこの場にドレスの絵本が置いてあったりして,子どもがイメージをもって遊べるような環境構成が行われていた。3歳児の研究保育では,生活習慣が身につについて,自分で服の着替えをする姿が見られ,友達への意識もあり,ブランコや泡の遊びで友達と関わりを楽しんでいた。教師が,友達の姿を伝える声掛けをよくしていた。
- ・療育での懇談で,療育での姿や個別に関わる時の配慮について共有した。
- ・アンケートで,98%の保護者は子どもたちがよく遊び,学んでいると答えているが,教職員はまだ十分ではないと答えている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・子どものイメージに合った環境,やってみたいと思える環境づくりを行い,友達との関わりが盛んになるようにしたい。
- ・一人一人の課題やその援助について知るために,専門機関との連携を継続したい。
- ・もっと環境構成を工夫して遊びが充実するようにした。子どもたちが何に気づき学んでいるか,遊びの様子を見て,引き続き子どもの育ちを家庭に発信していきたい。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- ・子どもが主体的に活動し,豊かな学びが経験できるための教師の援助や環境構成の在り方を探ることを目指した,研究保育,エピソード研修の実施(小学校への公開保育,研究部会でのエピソード研修の実施)
- ・週案を活用した子どもの実態の把握
- ・個の発達に応じた関わりをするための,専門機関との連携や園内研修の実施
- ・保護者アンケート項目「子どもは,夢中になって遊ぶことを通して,主体的に学ぶ力(学びに向かう力)を身に付けていること」の回答

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・子どもたちが「手の込んだ」遊びをしている。子どものイメージがあふれ,つくるものがおもしろいと思う。これからも子どもの発想があふれ,いきいきと園での遊びが楽しめるようにしてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した)各種指標結果

- ・5歳児での研究保育を12月に1回実施し,学校指導課の参与にご指導を受けた。
- ・10月15日に発達障害コンサルテーションを実施し,竹田契一大阪医科大学LDセンター顧問に

	<p>よる発達障害のある子どもへの支援について学んだ。</p> <p>・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答は、A（当てはまる）が95％、B（やや当てはまる）が5％であった。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育では、材料用具の出し方や提示するタイミングが子どもに活動のめあてを持たせることになることが分かった。また、子どものやりたいことを見取る力、意欲が増す認め言葉かけが大事であることを学んだ。 ・週案はできるだけ具体的に遊びの内容や出した教材を記録するように努めた。 ・発達障害コンサルテーションでは、対象児について、その子の持つ特性と対応をお聞きした。保護者とかかわりでは、検査を1度でも受けているということは親が悩んだということ、「あなたのせいじゃない」と伝えることがまず第一である、ということ学んだ。保護者の気持ちも理解できるように努めたい。 ・保護者アンケートで95％の人が、子どもの様子を見て主体的に遊んでいると感じていることが分かった。園の発信の仕方が課題である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがもっと意欲的に遊びたい教師の言葉かけや環境構成を考えたい。 ・園研の主題に迫れるような週案の在り方について、研修で聞いた方法を取り入れたい。 ・発達障害の子どもをもつ保護者の気持ちまで理解して、支援の在り方を考えていきたい。 ・ホームページやICT機器を利用し、保護者が園に集まらなくても子どもの様子が発信できる方法を考えたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新に努力していることが分かるように、アップした時は登降園時に知らせしてほしい。閲覧する人が増えて、教育内容も分かってもらえると思う。

（２）幼小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小交流の年間計画を立てて実施し、子どもの姿の変容を確認する。 ・オンラインやDVDを活用し、学校の様子や保育所の友達の様子を知る機会を作る。 ・小学校の人権教育を視点にした授業を参観したり、幼稚園の公開保育や普段の遊びの様子を小学校教員に見てもらい、互いの教育について理解する。
	<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育、授業参観、幼小の教育についての研修会の実施回数 ・交流活動の内容の工夫 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して子どもを育もうとしていること」の回答

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の交流を含めた年間計画を策定し、実施している。 ・幼稚園の公開保育を小学校の教員に見てもらって、感想を聞いたり、幼稚園の教員が小学校の模擬
--	--

授業を参観したりした。	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修は3回行い、感染が収まったところに子どもが交流できないかと考えている。 ・幼稚園の環境構成が丁寧で、小学校でも取り入れたいという意見が複数あった。小学校の授業では、子どもに資料を提示するタイミングや出し方について話し合われていた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも可能な、例えば DVD での交流など保幼小の子どもの交流の方法を検討したい。 ・違う校種の授業や保育を見ることで、そのアイデアを取り入れたり、自分のやり方を振返ったりして、自身の力量の向上につなげたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観，幼稚園の公開保育の参観を行った回数 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して子どもを育もうとしていること」の回答 ・教員の研修が，互いを理解しあうという視点に立った内容になっているかどうか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>コロナ感染が収まったところに，実際に交流出来たらうれしい。学校に行く前に顔を知っているのは，進学時の安心感につながる。</p>

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観，保育参観は実施できなかったが，10月の運動会，12月の楽しい集いには小学校の先生に来ていただき，子どもたちの姿を見てもらった。 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して子どもを育もうとしていること」の回答 ・保育士，教員の情報交換で感染対策やICTの活用について話し合った。 	
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの交流は実施できなかったが，教員の交流は計画通り行えた。 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して子どもを育もうとしていること」の回答は A（あてはまる）66%，B（ややあてはまる）30%，C（あまりあてはまらない）2%，D（あてはまらない）2%という，他の項目に比べると厳しい結果であった。 ・保幼小それぞれの子どもの姿を共有できたこと，ICTの活用の方法を聞いたことが学びになった。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も年間計画を立てて，その時の状況に合わせた取組を行いたい。 ・保護者アンケートの結果が厳しかったのは，取り組んだ内容を園が十分に伝えられなかったからと思われる。 ・子どもの実態を共有し，交流での育ちが見えるような事前と事後の研修を行いたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携は何をやっているのかわからなかった。子どもの交流がなくても教員の交流があったことをもっとアピールすべきではないか。

価	
---	--

(3) 預かり保育に関して

	具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態や興味に応じた遊具を選び、継続して遊べるようにする。 ・預かり保育の記録を園長や担任が共有し、子どもの姿を把握する。
	(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加率 ・預かり保育記録の週に1回の共有 ・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答

中間評価

自己評価	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加率は曜日によって変動があり、少ない水曜日は約10%, 多い木曜日・火曜日は50%以上の利用がある。 ・預かり保育の記録を園長は週に1回見ている。 ・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答はA（あてはまる）が92%, B（ややあてはまる）が8%であった。
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育を利用の仕方の傾向がわかったので、シフトや遊具について考え、より安心して利用してもらえるようにする。また、個別に支援の必要な子どもが参加するときの、安全確保が課題である。 ・アンケートより、ほぼ全員の保護者が安心して預かり保育を利用できていると感じていることが分かった。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の多い曜日に学生ボランティアをつけたり、遊具の種類を増やしたりして、親子とも安心して参加できるようにしたい。 ・記録に目を通すだけでなく、保育に生かせるように、子どもの姿や遊びの様子を園長から担任へ伝える。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加率 ・預かり保育記録の園内研修時などに共有 ・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育が定着し、長く園で友達と遊びたい子どもの気持ちが満たされている。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加率は、多いのが火曜日と木曜日で約50％，少ないのは半日保育の水曜日の10～15％である。 ・預かり保育の記録は、子どもの姿を知ったり，特にコロナの陽性者発生時に役立つことがあった。 ・アンケート項目「園は，安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答は，A（あてはまる）90％，B（ややあてはまる）10％であった。
自己評価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加率は前期と変わらず，曜日により差がある。利用者の多い木曜日に学生ボランティアを入れて，安全面をしっかりと見られるようになった。 ・預かり保育は気軽に，安心して利用していただいている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が多い時や支援を要する複数の子どもの参加があった場合の，安全確保が課題である。状況や特性を分かって子どもが落ち着いて参加できるように関わることができるボランティアを配置したい。 ・預かり保育が定着しているので，新しい遊具を取り入れた学年との交流ができるという良さを生かして内容の充実を図りたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>来年度，早朝預かり保育が始まるのは助かる。アピールして，たくさんの方に利用してもらったらよい。</p>

（４）子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長や担任が登降園時やほっこり子育てひろばなどで，具体的な子どもの姿について話したり，保護者の困りを把握したりする。 ・地域の児童館，保育所と保護者や子どもの実態などの情報を交換する「ぐんぐん会議」を行い，地域の実態に即した支援を行う。 ・「うさぎ組」「めだか組」で，未就園児保護者同士の交流を図るとともに，園児や教員の様子，園の環境を見てもらい，幼児期に大切なことを発信する。 ・「親子で絵本」（読書ノート）の活用
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数 ・「ぐんぐん会議」の実施回数とその内容 ・「うさぎ組」「めだか組」の参加人数 ・保護者アンケート項目「園は，保護者の子育て支援の充実を図っていること」，「園では読書活動の推進に向け，親子読書をすすめていること」の回答

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばは時間と内容を短縮して，3回実施，参加者は毎回4名であった。 ・「ぐんぐん会議」は6月に1回実施し，12月の「ぐんぐん広場」の取組について話し合った。
--

	<ul style="list-style-type: none"> ・「うさぎ組」「めだか組」の登録者数は両方 13 人，参加者数は 3 組～10 組であった。 ・保護者アンケート項目「園は，保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答は A が 88%，B が 12%，「園では読書活動の推進に向け，親子読書をすすめていること」の保護者の回答は A が 90%，B が 10%であった。一方，教職員の回答は A が 58%，B が 42%で保護者の回答と違いが見られた。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんぐん広場」を地域の児童館，保育所と運営することで，地域への理解が進んだ。 ・「うさぎ組」「めだか組」の登録者数が伸び悩んでいる。参加する親子が定着し，親同士のコミュニケーションが図れている。 ・保護者アンケート「園では読書活動の推進に向け，親子読書をすすめていること」の回答が，保護者より教職員の方が厳しい回答であったのは，もっと親子での絵本の読み聞かせを楽しんでほしいと願っているからであると思われる。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の機関と連携し，子どもの実態をつかみたい。 ・「うさぎ組」「めだか組」の登録者数を増やすために，PTA や在園児保護者にも働きかける。 ・親子読み聞かせは，親の肉声で美しい言葉を聞き，絵を見ることができる大事な，幼児期のかかわりの一つであることを保護者に知らせていきたい。 <div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数 ・「ぐんぐん会議」の内容 ・「うさぎ組」「めだか組」の参加人数 ・保護者アンケート項目「園は，保護者の子育て支援の充実を図っていること」，「園では読書活動の推進に向け，親子読書をすすめていること」の回答
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・近くに未就園児が引っ越して来たら，竹田幼稚園に「うさぎ組」「めだか組」があることを知らせたいと思う。

最終評価

	<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばは内容を縮小して，2 学期に 4 回実施した。毎回 2～4 人の保護者の参加があった。 ・地域の保育所，児童館と行う「ぐんぐん会議」では，12 月 20 日に地域の少年補導や女性会主催の「ぐんぐん広場」（人形劇鑑賞）について打ち合わせが主であった。 ・未就園児教育相談の参加人数は，うさぎ組は 3～4 組，めだか組は 10 組程度であった。 ・アンケート項目「園は，保護者の子育て支援の充実を図っていること」の A（あてはまる）の回答は 88%，B（ややあてはまる）は 12%，「園では読書活動の推進に向け，親子読書をすすめていること」の回答について A は 90%，B は 10%であった。
自己評価	<div>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばは少人数でアットホームな感じで懇談ができた。最後の誕生日カードを保護者にかいてもらっているが，子どものよいところが書かれていて，温かくかかわっているこ

価	<p>とが感じられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんぐん会議」「ぐんぐん広場」は貴重な地域との交流の場であり、12月のぐんぐん広場では子どもたちは、改進黨育所の子どもたちと一緒に人形劇を喜んで見ていた。 ・子育て支援の一つとして、外部の業者弁当の仲介をしているが、回数を増やしたところ、利用者が増加した。
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばの内容に変化をつけて、より楽しめるものにしたい。就労している母親が増えてきているので、長くない時間で、子育てのことを振り返る機会にしたい。 ・ぐんぐん会議はじめ地域の組織に積極的に参加し、情報交換を通し手子どもの育ちを発信したい。 ・子育て支援が肩代わりにならないよう、保護者の役割も伝えながら、支援の拡大を行いたい。 ・親子読書は読書ノートを活用し、読み聞かせの大事さを伝えていきたい。
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>業者弁当の回数が増えて、弁当作りの負担が減ったことはありがたい。子どもの様子を見て利用したい。</p>

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p><u>具体的な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の会で幼稚園の教育方針や教育課程について発信する。 ・学校運営協議会理事に、運動会など行事の子どもの姿を見ていただいたり、学校評価の結果について発信したりして、理事の意見をもとに教育課程の見直しを行う。 ・「お茶会」など地域の方々の力を借りて、子どもが豊かな経験ができるようにする。
<p><u>（取組結果を検証する）各種指標</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の会に出席し、教育方針や教育課程の簡単な資料を配布し、発信する。 ・園行事や地域との交流、学校評価についての学校運営協議会での意見 ・保護者アンケート項目「園は、家庭・地域と連携した取組を進めていること」の回答

中間評価

各種指標結果	
・地域との交流が実施できていないので、学校評価の結果を配布し、園の様子を知らせた。	
・保護者アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」の回答は、A（あてはまる）65％、B（ややあてはまる）33％、C（あまりあてはまらない）2％であった。	
自己評価	分析（成果と課題）
	・アンケートの結果は、肯定的な評価が多いものの、交流実施のための地域の理解が必要である。
	分析を踏まえた取組の改善
	・コロナ禍でも実施できる方法を考え、地域に理解を図りたい。
	・11月に今年度初めての地域の会があるので、教育方針について説明したい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	・地域の会に出席し、教育方針や教育課程の簡単な資料を配布し、発信する。
	・園行事や地域との交流、学校評価についての学校運営協議会での意見

	・保護者アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」の回答
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事もコロナ禍でも工夫してできるようにしてほしい。

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・11月12日、学校運営協議会にて地域の方に幼稚園の教育方針について説明する機会があった。 ・運動会やコンサルテーションの研修では小学校校長、幼小連携主任、育成学級担任に参観していただく機会があった。 ・保護者アンケート項目「園は、家庭・地域と連携した取組を進めていること」の回答は、A（あてはまる）66%、B（ややあてはまる）30%、C（あまりあてはまらない）2%、D（あてはまらない）2%であった。
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事やコンサルテーションで小学校の先生にも子どもの姿を見ていただき、子どもの育ちや幼児期の発達段階、支援の必要な子どもへのかかわりを学ぶことができた。 ・保護者アンケートでは他の項目に比べると厳しい評価であった。子ども同士の交流ができていないことが理由と考えられる。実際に会う子どもの交流はなくても、DVDやズームなどを用いて行いたい。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を見てできるだけ園を開き、小学校や地域の方に子どもの姿を見ていただき、幼稚園教育の発信の機会としたい。 ・保幼小交流はICTの環境を生かした子どもの交流だけでなく、教員も行っていることとその内容を発信し、同じ地域で育つ子どもを連携して育てていることを保護者や地域に知らせたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小交流は何をしているのかわかりにくい。おたよりやホームページで知らせたらどうか。

（６）教職員の働き方改革について

重点目標	教員が見通しを持って仕事をし、個々の教員の生活の質を高める。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・担任会を持ち、一か月単位で保育の流れや見通しを把握する。 ・教頭、教員が休業期間中に年休を昨年より1日以上多く取得する。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・担任会の開催回数と所要時間 ・教頭、教員の年休取得日数

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・担任会は月 1 回，1 時間ほどで行った。 ・夏季休業中の年休取得日数は 3 日～7 日であった。 	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・担任会で 1 か月，または運動会など大きな行事の見通しを立てることができたとともに，行事予定の職員会も短時間で行うことができた。 ・夏季休業中の年休取得日数は，昨年度は 2. 5 日～5 日で，比べると今年度の方が多く取得できた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・月 1 回の担任会を継続する。 ・日々の時間外勤務の削減に努めたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・担任会の開催回数と所要時間 ・教頭，教員の時間外勤務
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと遊ぶという大変な仕事で，感謝している。緊急時以外の電話も 5 時以降は控えたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・担任会は月 1 回，職員会の前に開くことができた。約 3 0 分から 1 時間かかった。 ・教頭，教員の時間外勤務は毎月，教員は約 3 5 時間，教頭は約 3 0 時間であった。 	
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・担任会では少人数で保育の計画を話し合うことができ，それが職員会で生かされ，効率的であった。 ・時間外勤務は大きな行事があると増えたり，一度退勤時刻が遅くなると翌日から遅くなりやすい傾向がある。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・担任会は継続して行い，保育の質の向上にもつながるように，子どもの姿も教員で共有したい。 ・月に 1 回，研究の部会の日は定時退勤を目指す。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナで休園になった時も，陽性者を最小限に抑えられたのは先生方のおかげだと思っている。教職員も体を大切にしてほしい。